東京大学農学部
国際開発フォーラム
2017年6月13日

実務としての国際協力

–研究者から実務者へ転身して–

田中 幸夫（現在無職）

自己紹介

1999	人生初の海外旅行＠バングラデシュ（この業界を志す）
2002	学士（東京大学農学部。日本の農業水利組合の持続性メカニズム）
2004	修士（東京大学大学院農学生命科学研究科。卒論テーマ継続）
2004~05	零細コンサルティングファーム勤務（インドビザの発給待ち）
2005~06	UNEPアジア太平洋事務所インターン＠バンコク
2007	博士課程中退。東京大学大学院新領域創成科学研究科・助教
2008	東京大学「水の知」（サントリー）総括寄付講座 特任助教
2011	博士号取得（ユーフラテス川の水紛争分析）。特任講師に昇進。
2012	JICA入構（社会人採用。地球環境部水資源グループ配属。14年より同防災グループ）
2015	JICAネパール事務所（水・環境・防災・震災復興セクター担当）
2017	5月末 JICA退職予定。7月世界銀行入行予定（上級灌漑専門官）

<u>これまで携わった途上国</u>：

大学時代…トルコ、シリア、イラク、タイ、

JICA…チュニジア、アフガニスタン、イラン、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、サモア、トンガ、パラオ

<u>好物</u>：水文学、河川工学、農業全般、GIS/RS、防災、国家・地域のありかた

本日のお題目

I. JICA本部での仕事（20分）
   1. JICA事業の概要
   2. 個別案件紹介
   3. 大学からJICAへ転身して

II. JICAネパール事務所での仕事（30分）
   1. ネパールの概要
   2. 2015年ネパール震災とその復興プロセス
   3. 復興へ向けた課題

III. キャリア形成について今思うこと（20分）

※カッコ内は目標所要時間

１．JICAでのお仕事

JICAの支援スキーム

1. 技術協力
   - 技プロ：相手国機関（e.g. 水道局）に複数の専門家（官/コンサル）を派遣して技術指導。または相手国の開発マスタープラン作成。
   - アドバイザー派遣：相手国機関に常駐する専門家を派遣
   - 研修：途上国政府職員を日本に招聘し訓練
2. 資金協力（無償・有償）
   - 施設を設計するためのF/S（準備調査）を実施。
   - 無償は10～数十億、有償は数十～数百億。
   - 技術的項目に加え、コスト積算、環境社会配慮等も大切
3. その他

   ボランティア（協力隊）派遣、民間連携、SATREPS、南南協力、、、

JICAの組織体制

- 本部
  - 課題部
    - 社会基盤・平和構築部、人間開発部、産業開発・公共政策部、農村開発部、地球環境部（自然環境、環境管理、水資源・防災）
  - 地域部
  - その他（官房等）
- 事務所
  - 在外事務所：相手国政府との窓口
  - 国内センター：研修の実施、地域との窓口

JICAでのお仕事（課題部の場合）

仕込む	事務所、地域部とも相談しつつ、今後の協力対象となりそうな事業を発掘・選定し、事業実施に向けて情報収集・関係者調整などの地ならしをする。
検討する	相手国から上がってくる要請内容の審査を行う。まだ見ぬ土地に思いを馳せつつ、過去報告書（含．他ドナー）、文献、現地とのメールやりとりなどで情報を収集する。
立ち上げる	案件実施のための計画書を作成し、コンサルタント業務発注のためのTORを作成する。どこか科研費申請に似ている。
まわす	コンサルタントによる調査・技術協力の監理を行う。ここだけの話、学生の研究指導に似ている。
評価する	終了した調査・事業から課題・教訓を抽出し、組織に蓄積する。しかし実際は個人の枠を超えて蓄積することは難しい。。。

その他、突発的な仕事（政府委員会、他ドナー連携、国際会議…）

主な担当案件

国	スキーム	分野	2012				2013				2014			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
アフガン	開発調査	水源探査	■	■	■	■								
	準備調査	給水		■	■	■	■	■						
	技プロ	水文観測				■	■	■	■	■	■	■	■	■
	専門家	水資源	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
イラン	技プロ	流域管理							■	■	■	■	■	■
	基礎調査	水資源										■	■	■
	専門家	水資源									■	■	■	■
チュニジア	準備調査	治水	■	■	■	■	■	■						
	準備調査	海水淡水化							■	■	■	■	■	
サモア	準備調査	給水	■	■	■	■	■	■	■	■				
	技プロ	給水				■	■	■	■	■	■	■	■	■
その他島嶼国	要望調査	給水			■			■				■		
フィリピン	基礎調査	治水					■	■	■	■	■	■		
インドネシア	開発調査	水資源									■	■	■	■
	技プロ	流域管理									■	■	■	■
	専門家	水資源									■	■	■	■
ミャンマー	技プロ	防災												■
	SATREPS	水・防災												■

↑海外出張は平均すると月1週間弱くらい

平均的な1日

日本にいる時（＝全体の8割）

時間	大体やってること
9:30	出社 メール対応・打合せ 資料作成・あちこち電話
12:30 13:30	昼食
18:00	同上
22:00	報告書読み 調べ物 資料作成
	…

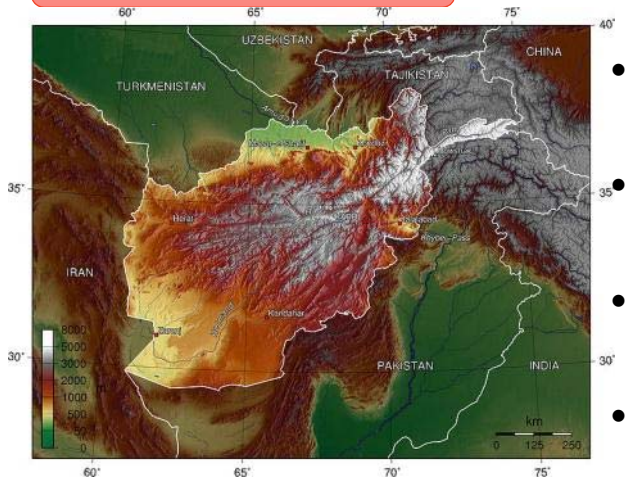
出張中（＝全体の２割）

時間	大体やってること
8:30	現地調査 先方協議
12:30 13:30	昼食
18:00	同上
20:00	夕食
？？	メール対応 協議文書作成 …

２．個別案件紹介

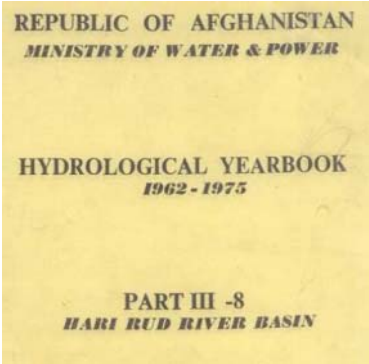
アフガニスタン：
水文・気象情報管理能力強化プロジェクト

アフガニスタン



- 内戦によりインフラ網は壊滅状態
- 農業国であり水資源開発が復興の鍵
- 融雪水による鉄砲水被害も
- 周辺国に対し上流に位置する

水文観測の現状

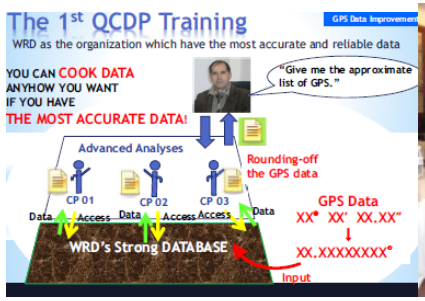


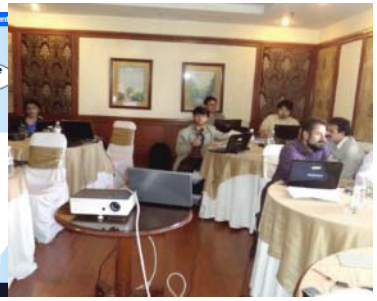
- ソ連統治が崩壊した'80年以降は観測欠損
- '03年以降、世銀支援により観測所が整備されるも、観測データ メタデータ共に処理しきれないままに

プロジェクトの取り組み

1. 観測所のメタデータ整理

2. データ入力、処理体制の確立
3. データベース構築
4. 水文解析の実施能力強化
5. データ公開体制の確立…

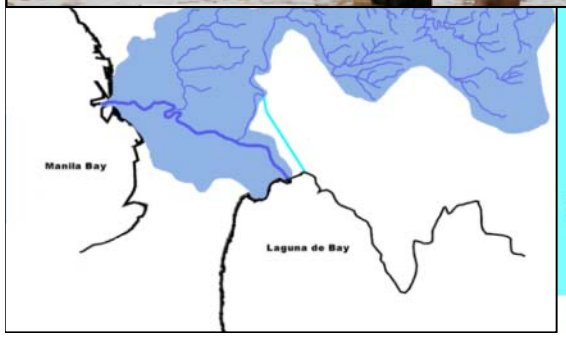


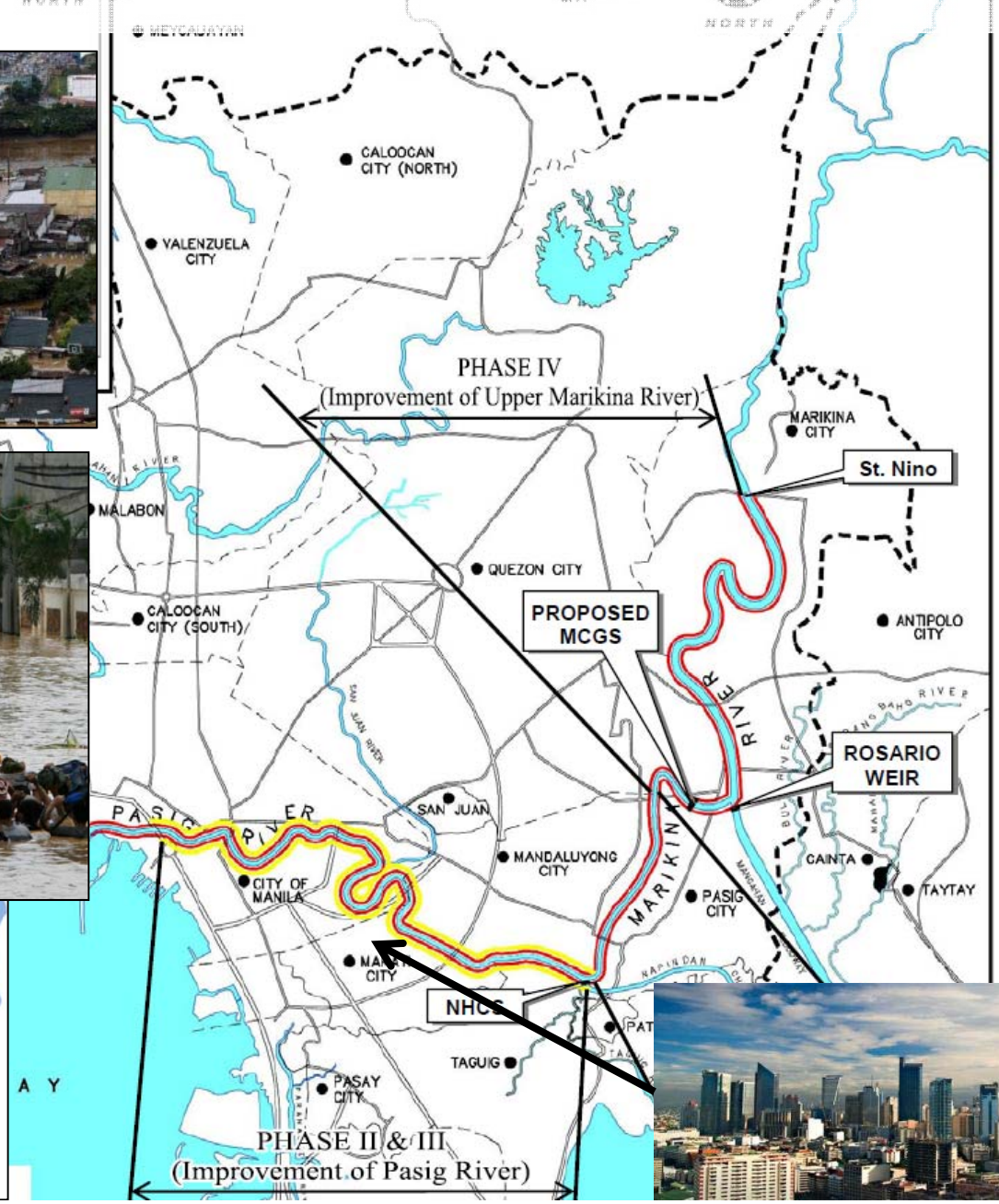


↑デリーでの研修の様子

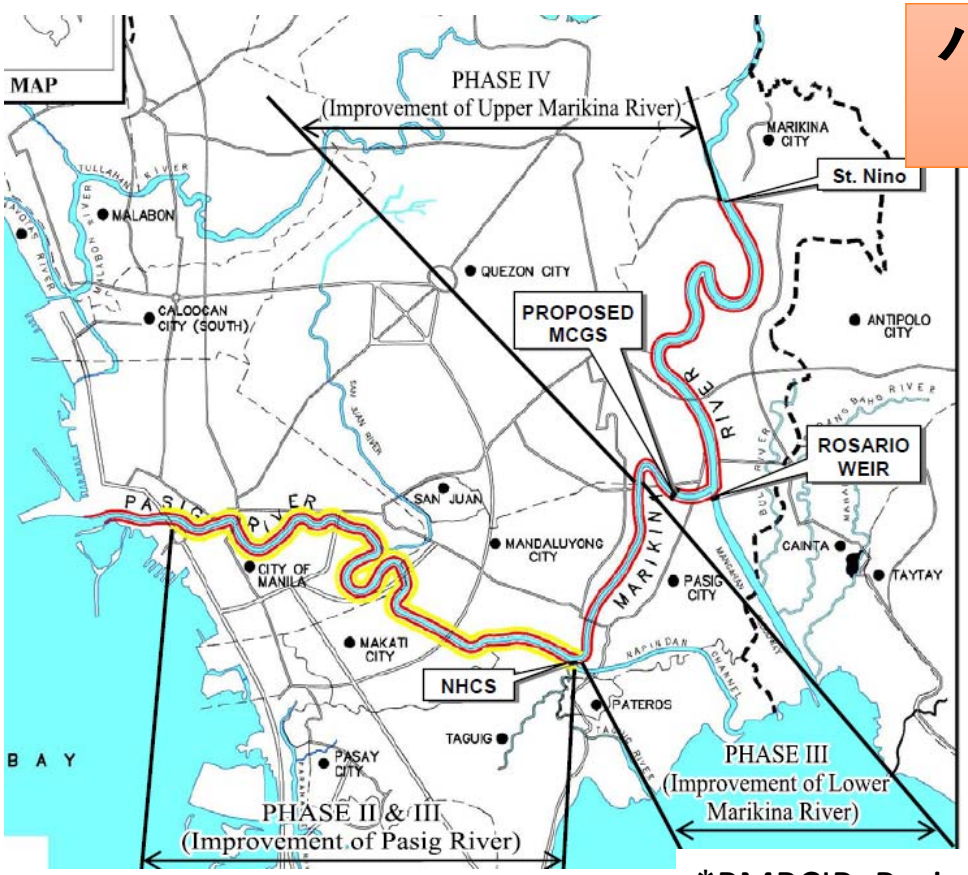
こんなところ

マニラ首都圏の河川と洪水被害





パッシグ・マリキナ川洪水対策に係る日本の支援



流域面積：635km2

*PMRCIP: Pasig Marikina River Improvement Project

1982年	パッシグ河治水事業（PH-P10。マンガハン放水路）
1990年	マニラ洪水対策計画調査（M/P策定）
2002年	PMRCIPフェーズ1（PH-P23。全体D/D）
2006年～	PMRCIPフェーズ2（PH-P26。パッシグ川区間）
2011年～	PMRCIPフェーズ3（マリキナ川下流+パッシグ川区間）
20XX年？	PMRCIPフェーズ４（マリキナ川上流+MCGS）

台風オンドイ

発災時期	2009年9月26日
雨量	1時間: 92mm、 12時間: 448mm、 24時間: 540mm
死者・不明者	501名
公共施設被害額	42億84百万ペソ（約100億円）

出典：加本（2009）台風「オンドイ」「ペペン」の災害、エキスパート会ニュース第168号

M/P見直し必要の声 → JICAは沈黙…

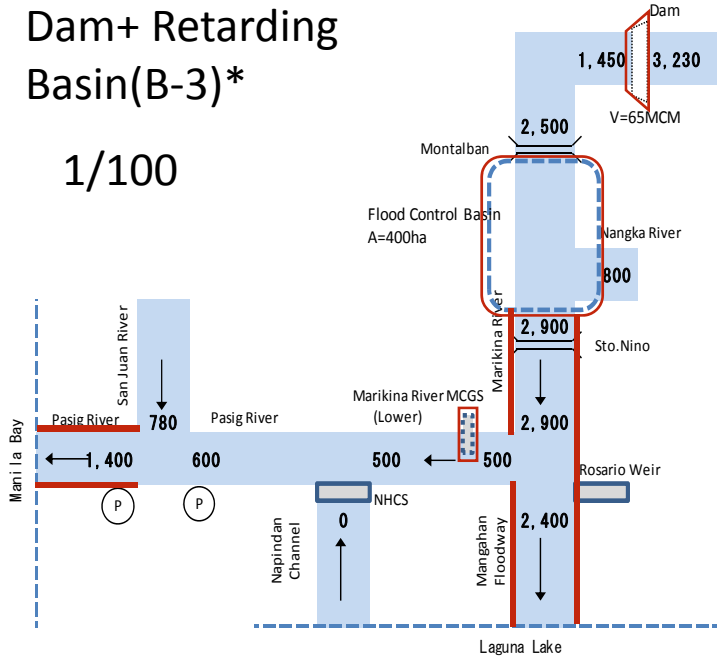
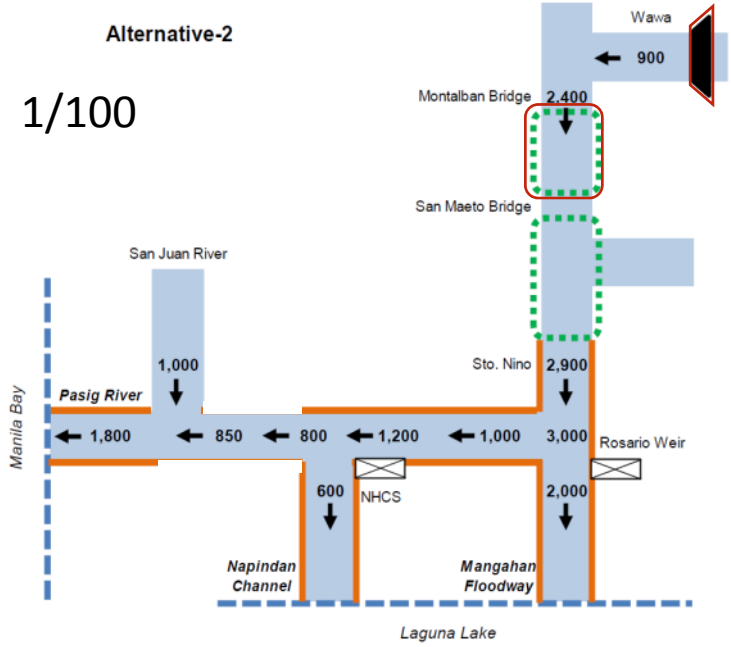
↓

世銀がM/P策定に着手 → 2012年 DFR完成

↓

2013年 JICA マニラ首都圏治水計画情報収集・確認調査

JICA M/P vs 世銀M/P （100年確率対応策）

	This Study	WB : Alternative-2
Flood Discharge Allocation	Dam+ Retarding Basin(B-3)* 1/100  	Alternative-2 1/100 

JICAの指摘した世銀M/P問題点

① 実施済み区間（フェーズ2、３）の治水安全度低下。完成事業のやり直しが必要。

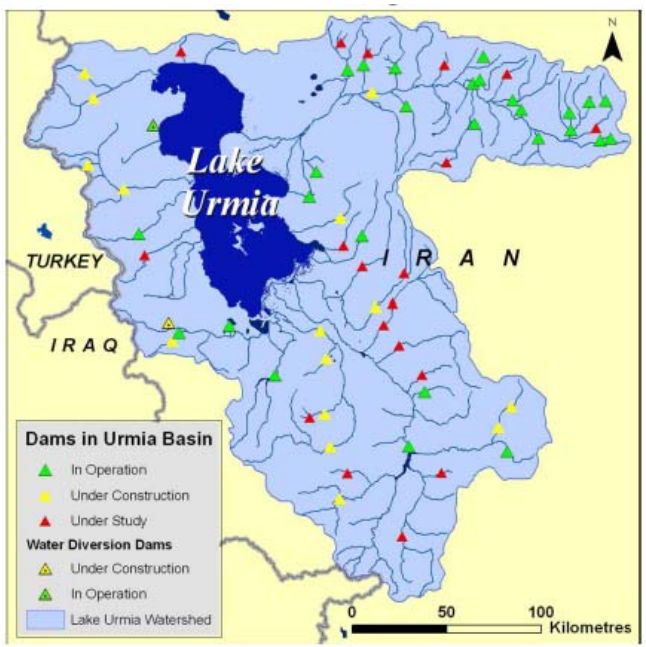
② 超過洪水発生時の人口密集地域への被害

③ ナピンダン水路逆流を前提とすることのリスク

④ パッシグ川河口部の河床維持

これらの技術的事項をシンソン大臣に説明

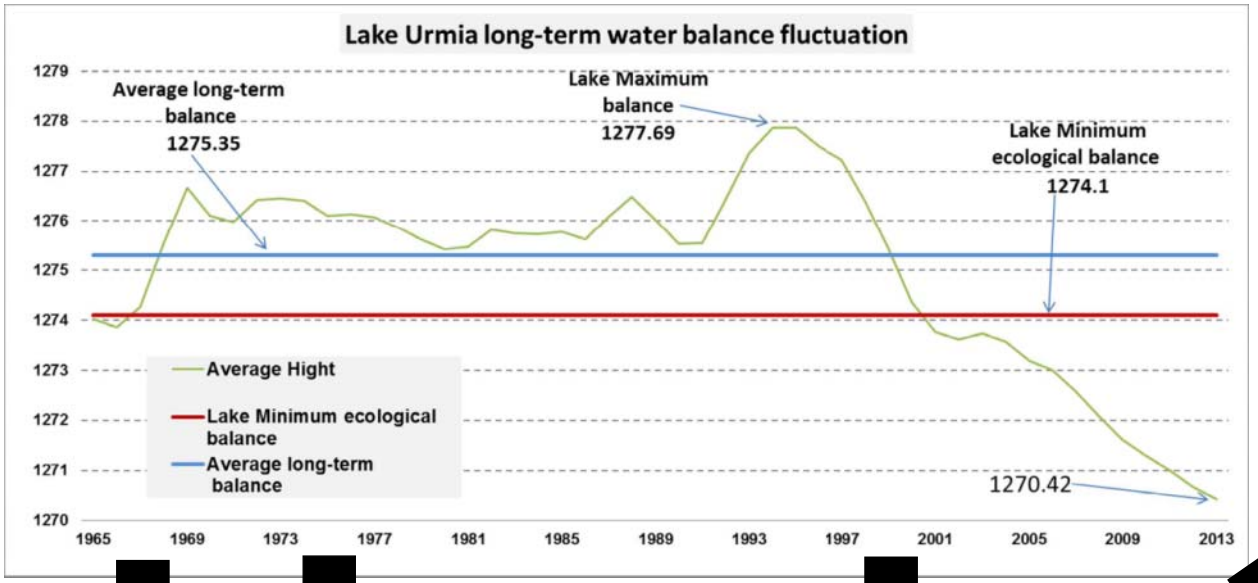
イラン・ウルミエ湖



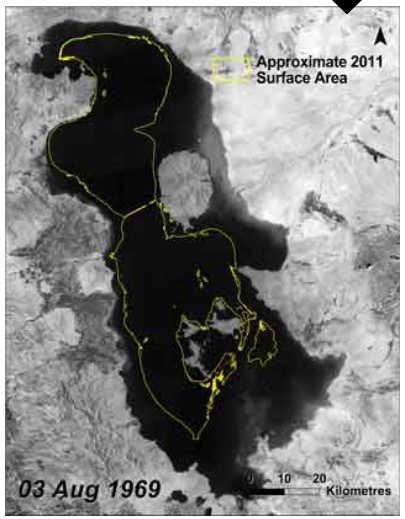
	ウルミエ湖	琵琶湖	アラル海
流域面積(km²)	51,876	3,848 （集水域）	1,549,000
湖面積(km²)	4,750-6,100 （通常） 2,366（2011）	670	67,000 （1960） 17,000 （2003）
湖貯水量（BCM）	12（水位1274m時） 5（水位1272m時）	27.5	1,089 （1960） 92（2011）
平均水深(m)	5.4	41.2	10（2007）
平均流入量（BCM/yr）	6（通常） 1-2（'08-'12）		56（1960） 4（1990）
流域人口(百万人)	2.6（1976） 6.4（2011）		14.1（1960） 41.5（2000）

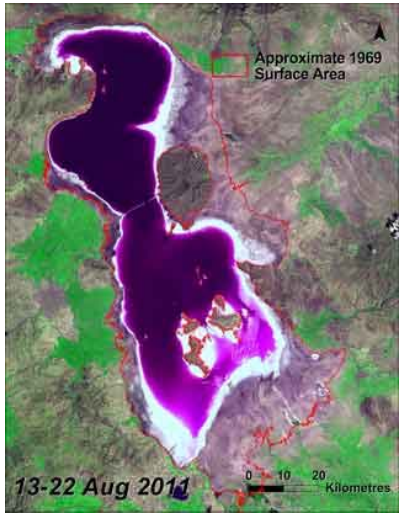
- 農地開発（ダム開発）により湖流入量が激減
- ロウハニ大統領が選挙時にウルミエ湖の保全を公約
- 現在、大統領直下に対策委員会設立、24の対策案（含.カスピ海導水）。

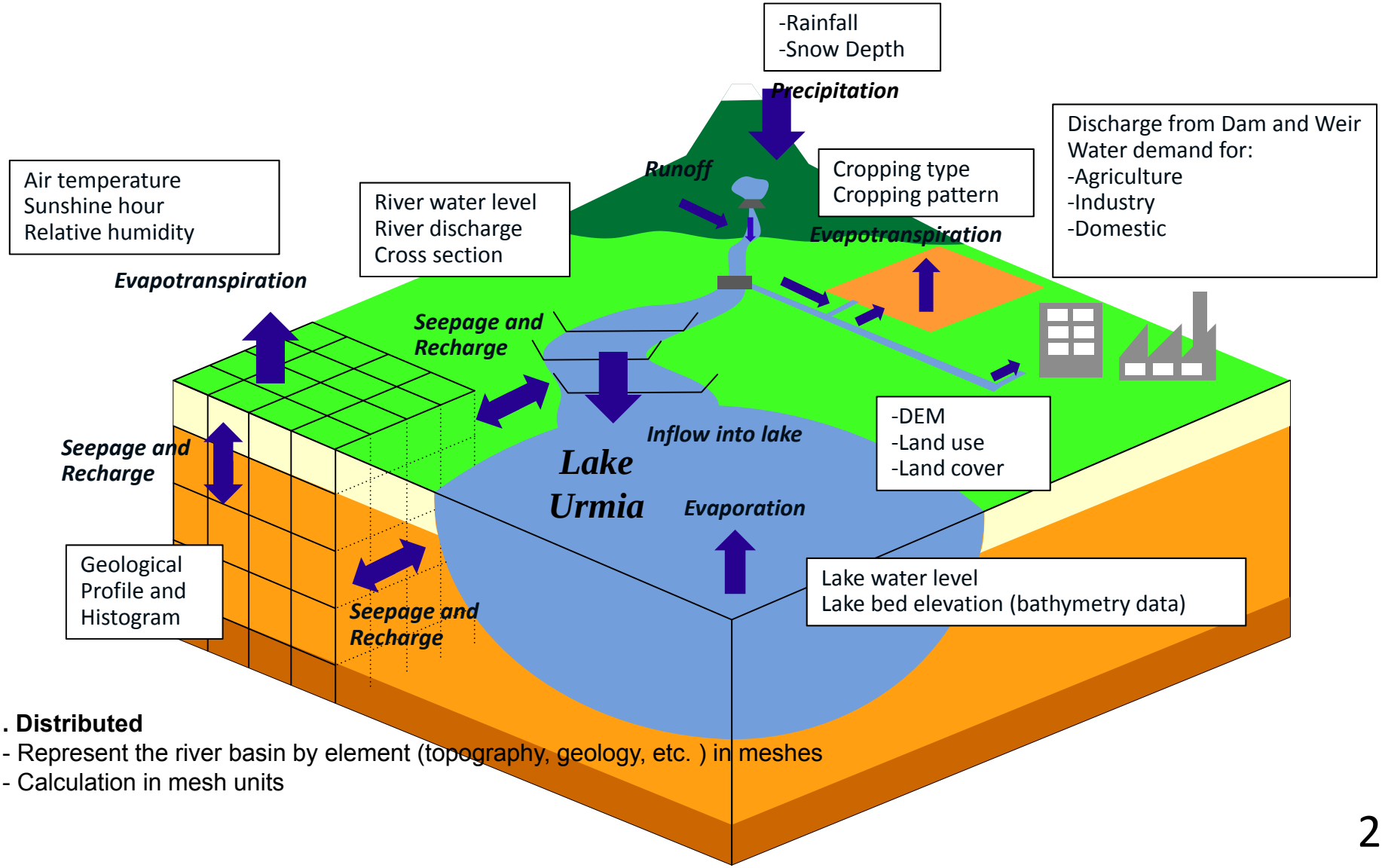
水位低下と湖縮小



Source: Department of Environment, Iran







1. Distributed

- Represent the river basin by element (topography, geology, etc.) in meshes
- Calculation in mesh units

- 分布型水循環モデルを構築し、湖面積回復シナリオを提言

JICAで働いて抱いた感想

- どの案件も（技術的に）難しい
  - 事務手続きが煩雑というのは聞いていたが、技術的にも相当骨のある案件多し
- 理想と現実のバランス感覚
  - 援助は慈善事業ではなく、（血税を使った）外交手段。
  - されど、割り切りだけでなく、時には愚直に理想を追求することも重要。
- JICA職員は国際協力の最前線ではない
  - 開発コンサル、NGOの方がより前線
  - しかし、一国の発展の在り方というビッグピクチャーを描けるのはJICA職員の特権

JICAで働いて抱いた感想

- だけど、面白い！
  - ダイナミックに動く現場に携われる・働きかけられる悦び
  - グローバルな枠組み策定への関与（SDGs、国連防災世界会議…）
  - 意外にやりたいアイデアが通る職場

大学からJICAへ移って役立っていること

- 分野の専門知識
  - 「針の穴」のような専門性よりは研究者としての教養がものを言う
- 調べる力・文献から学ぶ力
  - わからないことがあっても、「巨人の肩」に乗ることができる！研究者の皆さん、ありがとう！
- 学界の内情を知っている
  - 研究者にできる／できないこと。特に近年増えつつあるSATREPS（科学技術協力）
- 人・業界を知っている
- 教える力

大学では教わらなかったこと…

- 発注者としてのエンジニアリング・センス
  - 施設設計のために、何を、どの精度で、どの期間、いくらの投入で、調べればよいか

  ⇒省庁、コンサル出身者の方が有利
- 根回し、腹の探り合い
  - 対相手国、対〇〇省、対内部

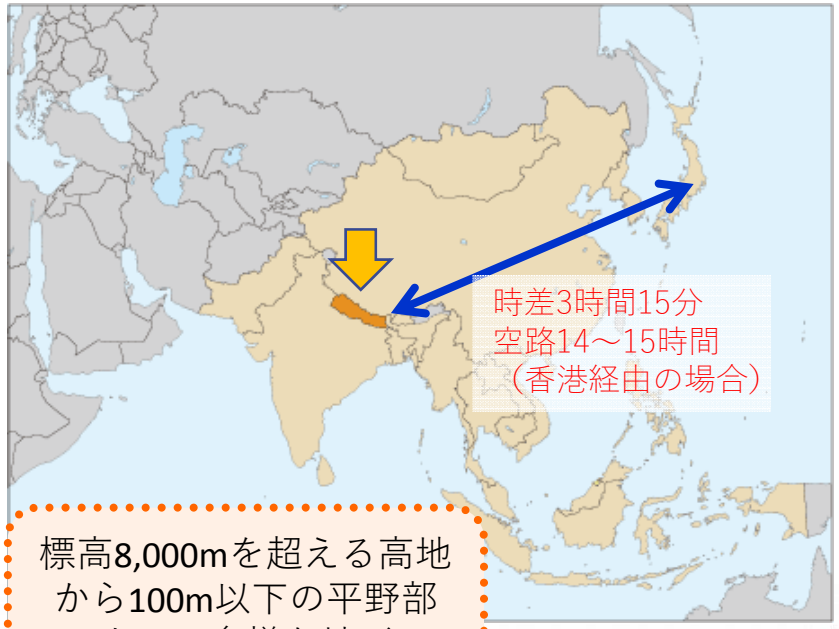
- 最初の1年は結構屈辱的でした。

Ⅱ. 2015年ネパール震災復興プロセス と開発援助機関の役割

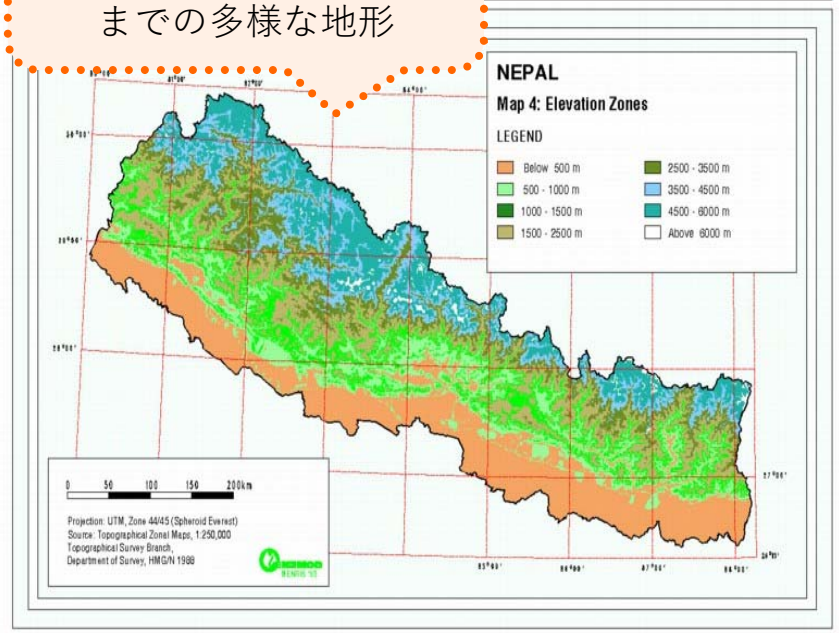
1. ネパールの概要
2. 2015年ネパール震災と復興プロセス
3. まとめ

ネパールの概況

国名	ネパール連邦民主共和国
首都	カトマンズ（Kathmandu）
人口	2,649万人（2011年国勢調査）
面積	14.7万km^2 （北海道の約1.8倍）
民族	インド・アーリア系、モンゴロイド系、チベット系などの多民族国家、125の民族・カーストが存在。
言語	ネパール語が公用語（約45%）、全国で125の言語。
宗教	ヒンドゥー教（81%）、仏教（11%）、イスラム教（4%）等
地形	国土の8割が山岳地帯であり、インド・中国に囲まれた内陸国。 ヒマラヤ造山帯に位置し、地震・地滑りが頻発。
外交	インド・中国との関連が緊密。特にインド経済への依存が強く、同国との友好関係の維持は重要。
経済	名目GDP：196.4億ドル（2014年） 一人当たりGNI：730ドル（2014年）



標高8,000mを超える高地から100m以下の平野部までの多様な地形



ネパールの人々

- 環境に抗わず、耐え忍ぶ気質（山岳国家ゆえ？）
- 和を以て尊しとなし、相手の空気を読む気質（多民族国家ゆえ？）
- 高い異文化順応性、海外で活躍するネパール人多数

⇒総じて日本人に通じる部分が多い

こっち　ネパール人

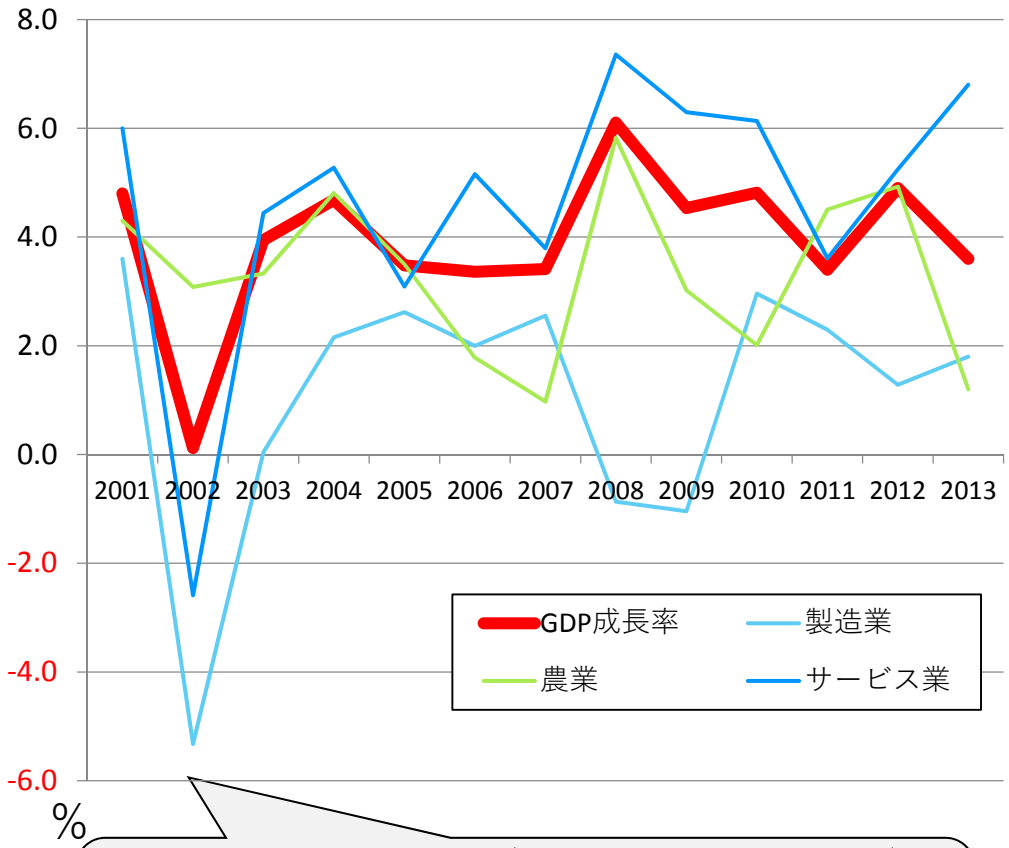
ネパールの歴史

13世紀	マッラ王朝による統治
15~17世紀	三大王朝による統治
1769年	プリトゥビ大王による国家統一（シャハ王朝）
1814-16年	グルカ戦争（イギリスとの戦争）
1846年~	ラナ将軍家による専制政治
1951年	王政復古
1959年	ネパール初の総選挙
1962年	新憲法制定、パンチャート制（国王親政体制）導入
1990年	新憲法制定、第一次民主化運動 （国王親政体制から立憲君主制に移行）
1996年	マオイストが反政府武装闘争「人民戦争」開始

2001年6月	王宮乱射事件（ビレンドラ国王一家の崩御）
7月	政府・マオイスト間で最初の停戦宣言
11月	マオイストが停戦破棄、国家非常事態宣言
2005年2月	国王による政権掌握
2006年4月	各政党がゼネスト開始（民主化運動） 国王による民主化宣言
2006年11月	包括的和平協定合意、内戦終結
2007年1月	暫定憲法の成立 国連監視団（UNMIN）設置（~2011.1）
2008年4月	制憲議会選挙実施
5月	制憲議会発足
2012年5月	制憲議会の解散
2013年3月	バッタライ首相辞任、最高裁判事を首班とする暫定政府発足
11月	第2回制憲議会選挙
2014年1月	制憲議会開会
2015年4月	ネパール地震発災
9月	憲法制定

ネパールの経済

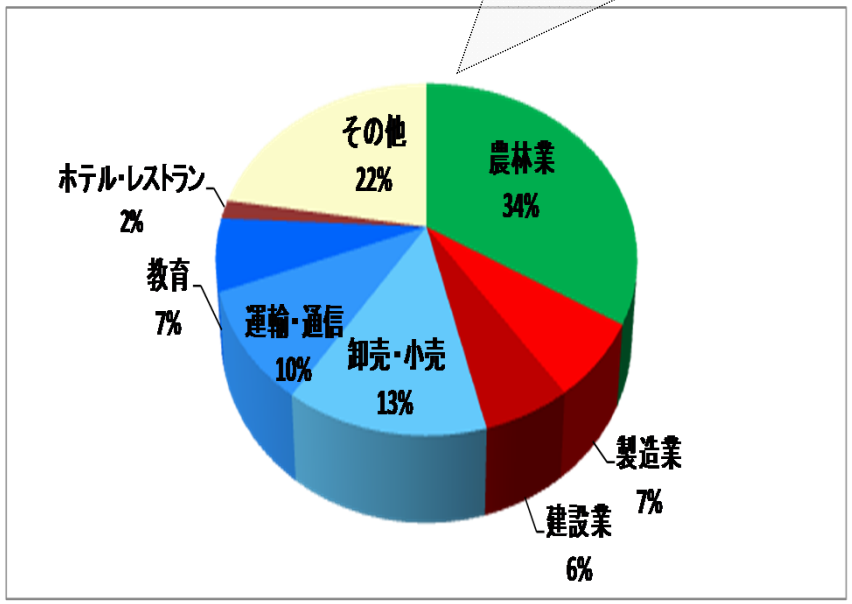
■実質GDP成長率・産業別成長率の推移



・内戦期間中に低下（**2002年は0.1%程度**）
・過去10年間で年平均4%(**低位ながらも安定的に成長**)。

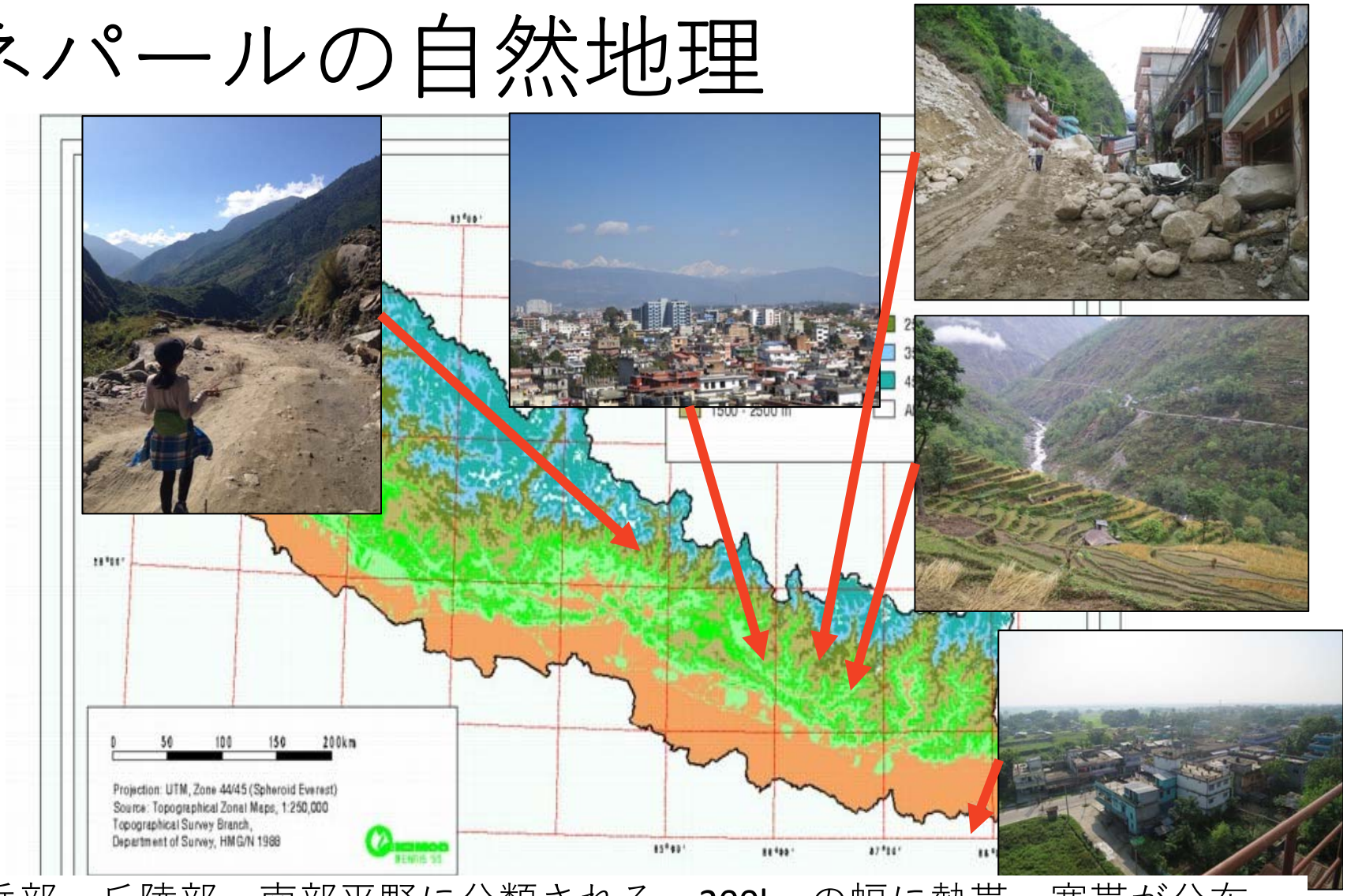
■GDP構成

・GDPに占める**農業の割合が約3割**。
・製造業は約６％程度。
・ポテンシャルのある産業としては**水力、観光業**等があるものの、**経済成長を牽引する有望な産業が育っていない。**



GDP比約30％の海外送金が牽引、インフレ率は10%/年に迫る水準

ネパールの自然地理



- 山岳部、丘陵部、南部平野に分類される。200kmの幅に熱帯～寒帯が分布。
- 山岳部、丘陵部は一部の盆地を除き、道路アクセス不良。徒歩でしか行けない集落も多数。地滑り頻繁。
- 南部平野は気候条件が厳しく、歴史的に低開発・被差別地域

2. 2015年ネパール震災と復興プロセス

2015年ネパール震災

■ 地震の発生

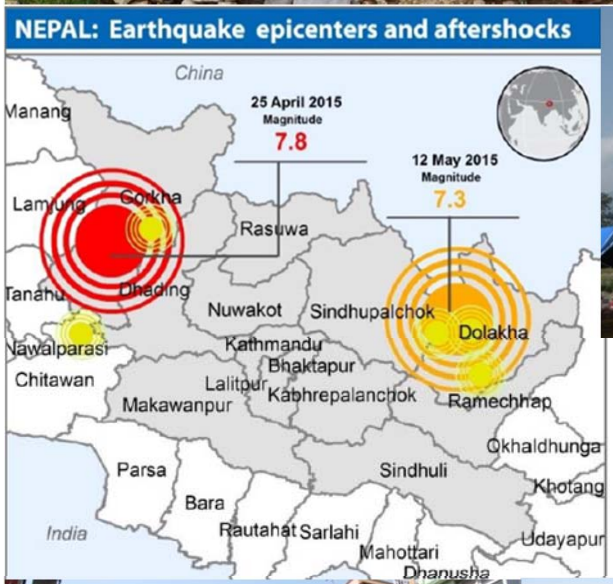
- 本震： 2015年4月25日
  M7.8　震源地：ゴルカ郡
- 余震：2015年5月12日
  M7.3 震源地：ドラカ郡

■ 被害状況

死者: 8,790名
負傷者: 22,300名
全壊建物: 498,852棟

■ 被害の特徴

- 首都の震度は5強程度。鉄筋建物はほぼ被害なし。
- 主な被害は地方部の組積造・泥モルタル建物に集中
- 地震に誘発された地滑りが多発



Source：OHCA Situation Report No.14
(13 May 2015)

発災から2周年までの歩み

		ネパールの動き	日本の動き
2015年	4月	震災発生	緊急援助隊派遣
	5月		BBBセミナー開催 国交省専門家派遣
	6月	復興支援会議	復興支援緊急プロジェクト開始
	9月	憲法制定・政権交代 インドによる国境封鎖開始	田中家妻子ネパール入り
	12月	復興庁設立	住宅・学校再建借款調印（260億円）
2016年	2月	国境封鎖解除	インフラ復旧無償調印（40億円）
	4月	住宅再建補助金配布開始	震災1周年セミナー
	8月	政権交代	
	12月		トカルパ村庁舎完成（復興支援インフラ第1号）
2017年	1月	復興庁長官交代（罷免）	
	5月	統一地方選挙（20年ぶり）	

発災から支援国会合まで（不休の2ヶ月）

国際緊急
援助隊派遣

→

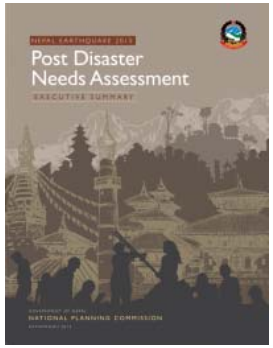
PDNA作成
BBBセミナー

→

支援国会合

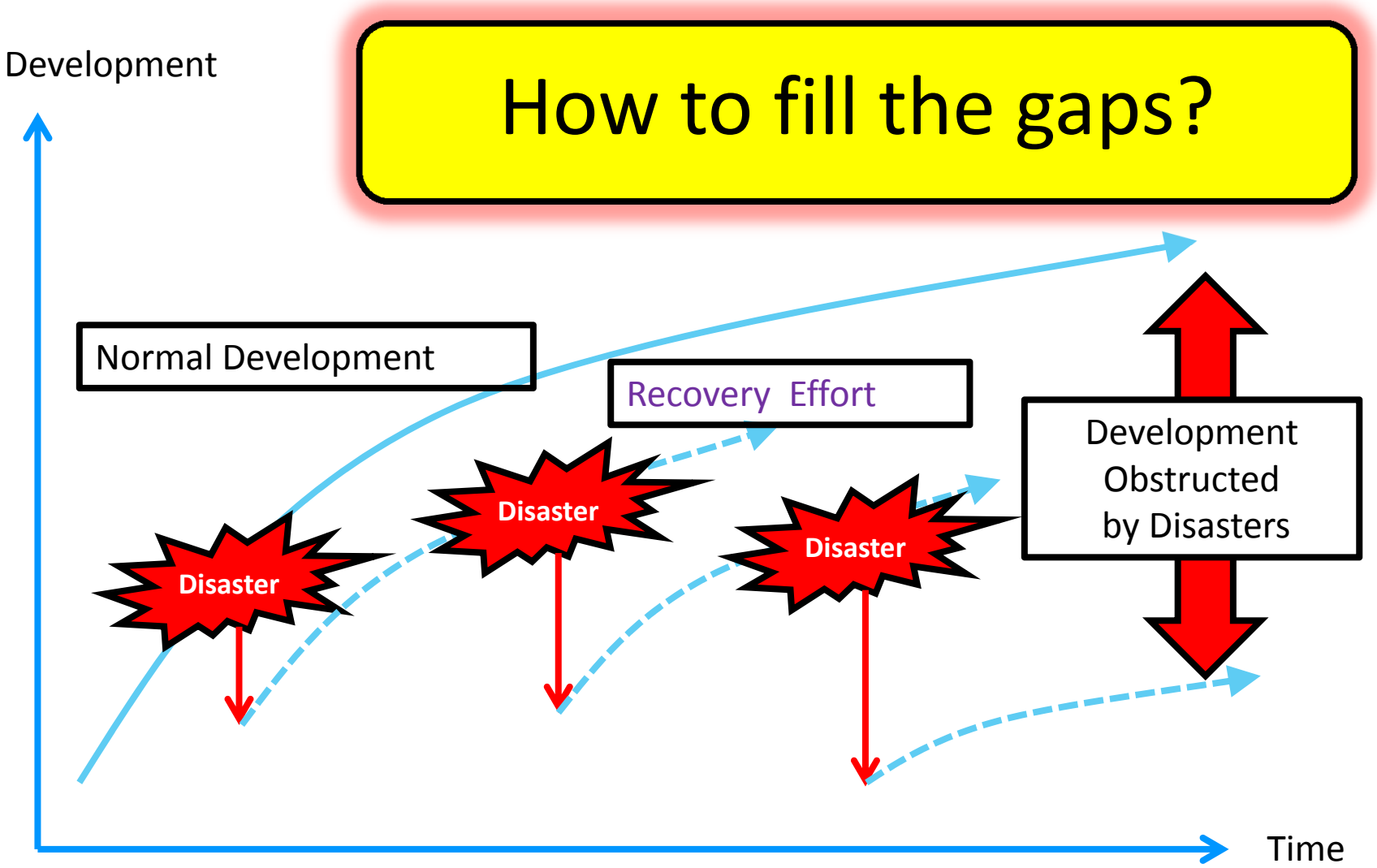
第3回国連防災
世界会議
（仙台防災枠組）

野戦陣営のような仮設オフィス



デモ耐震住宅展示

Build Back Better （より良い復興）とは？



被害額と支援額

復興必要額（百万USD）	
Social Sectors	4,077
住宅	3,278
保健、栄養	197
教育	397
文化遺産	206
Productive Sectors	1,156
Infrastructure Sectors	743
Cross-Cutting Issues	719
合計	6,695

Source: Post-Disaster Needs Assessment

■参考: 他の地震の被害額及び国家予算に占める割合
東日本大震災：16.9兆円（16%）
阪神淡路大震災：9.6兆円（14%）
ネパール大震災：0.7兆円（81%）

■各国の支援表明額と調印額 百万USD

	プレッジ額	調印額
インド	1,400	10
中国	766	0
ADB	600	200
世銀	500	200
日本	**260**	**260**
アメリカ	130	30
イギリス	110	40
総額	**4,400**	

■日本の支援内訳 百万USD

対象	スキーム	支援額
住宅再建	ローン	96
学校再建	ローン	112
文化遺産再建	無償	4
病院、橋梁、水道復旧	無償	32
その他		31
Total		**275**

住宅再建支援

※1Rs.≒1円

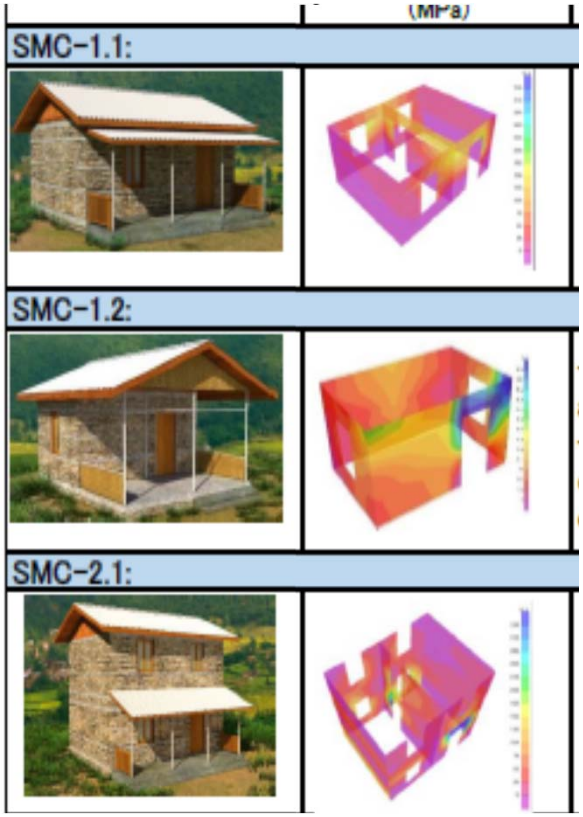
- 震災復興における中心的事業（対象60万戸）
- 原資: 世銀（240億円）、JICA（120億円）、MDTF（数十億円？）
- 全壊住宅に対し、30万Rs.の補助金を配賦
  - 脆弱性の再現を回避するため、再建進捗に応じ、5万、15万、10万Rs.を段階的に配賦

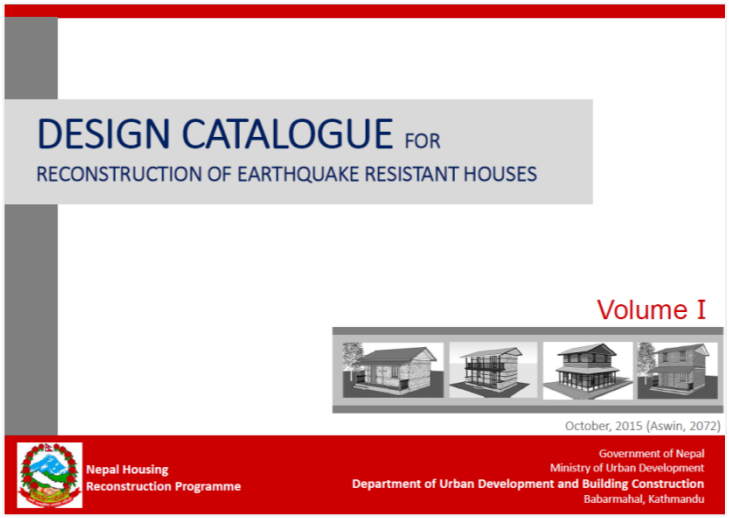
■課題

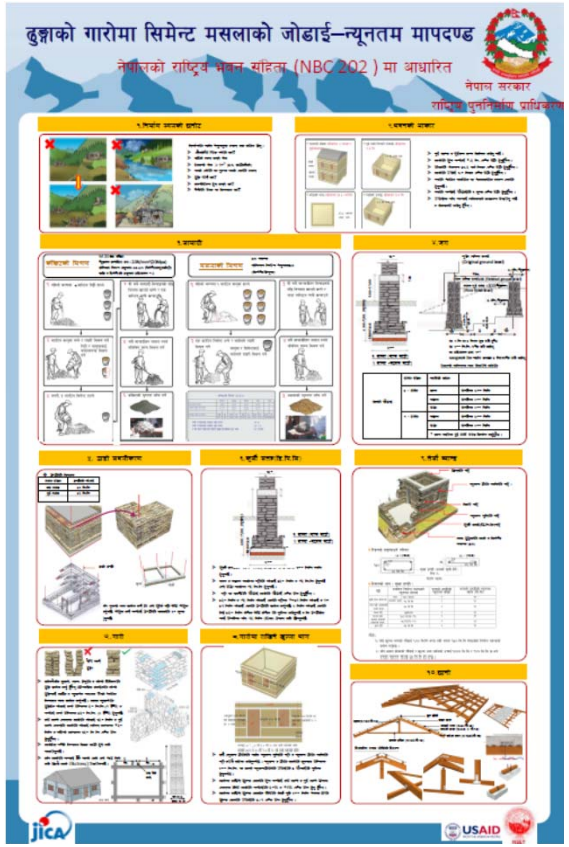
- 住民に建物強度を高めるための追加投資をいかにして促すか
- BBB（より良い復興）を志向する住民にいかにして技術的知識を伝えるか

住宅支援：JICAの取組（上流部分）

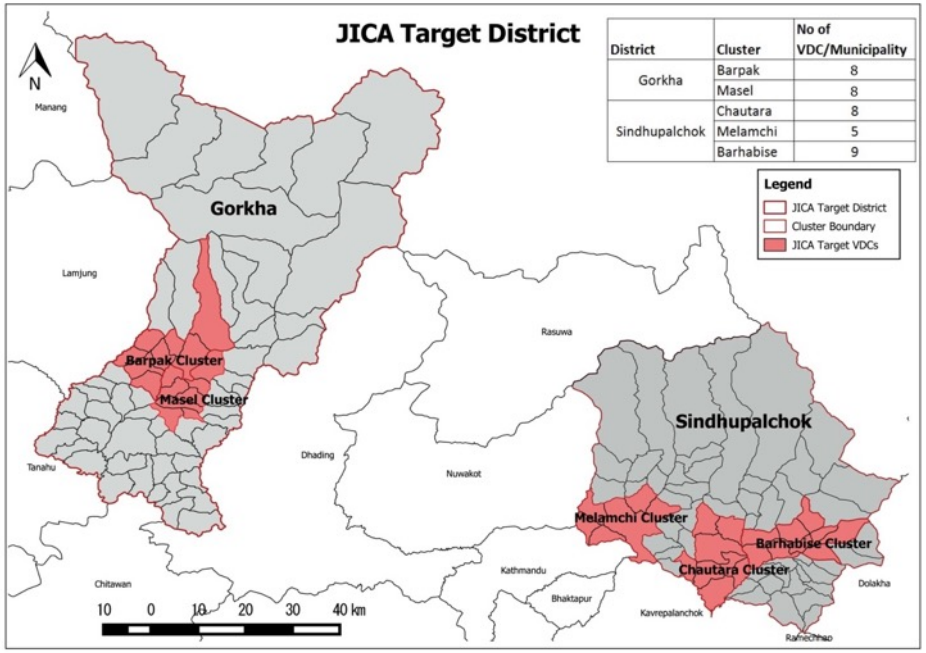
- 耐震基準を満たすモデル住宅設計の検討
  - デザインカタログ作成支援
  - Minimum Requirementマニュアルの作成





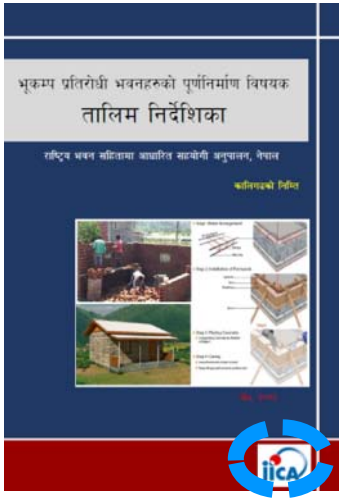


住宅支援：JICAの取組（現場レベル）

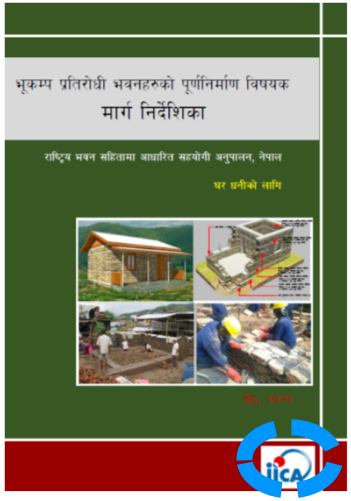


District	Cluster	No of VDC/Municipality
Gorkha	Barpak	8
	Masel	8
Sindhupalchok	Chautara	8
	Melamchi	5
	Barhabise	9

Technical handbook for masons



Guidebook for house owners



Sindhupalchok、Gorkhaの52,000戸を担当

Accomplishment till 16th April 2017

- Technical document

  Housing catalog, Minimum requirement, Inspection guide line and Manual, Correction/Exception manual

- 7days Mason Training: 72 times (2,157 masons)
- 1day Refresher Training: 49 times (1,404 masons)
- 1day House Owner Training :143 times (6,518 person)
- Training of Trainers for MOUD-CLPIU engineers

  19 times (493 engineers)

- Inspection Training for MOUD-CLPIU engineers

  15 times (401 engineers)

⇒しつこいほどに寄り添い、共に歩むのが日本の支援の真髄！

復興庁設立と政局による撹乱

- 2015年6月の復興支援会議で復興庁の設立が合意（CEO人事も内定）
- 9月に憲法制定、政権交代
  ⇒インドによる無期限国境封鎖（燃油危機）
  ⇒CEO人事も反故に
- 連立政権内の攻防の末、12月25日にようやく長官決定、復興庁設立
- その後も燃油不足のために被害調査が遅れ、補助金配布開始は16年5月に

JICAによるその他復興支援事業

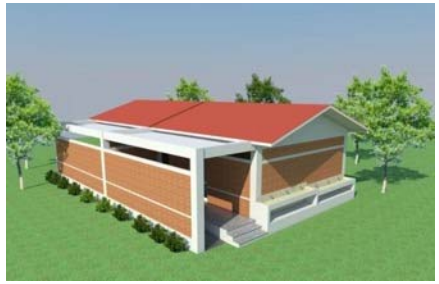
- 学校再建…140億円ローン。300校対象。

60 Types of Design

Academic Block

Practical Block

Multipurpose Hall



Toilet Combine

Health Facility

Bir Hospital (Kathmandu)
Area: 3,119m^2

Paropakar Maternity and Women's Hospital (Kathmandu)
Area: 5,046m^2

Ampipal Hospital (Gorkha)
Area: 933m^2

Barpak Health Post (Gorkha)
Area: 200m^2

Source: JICA Project Team(RRNE)

Support for Women and the Vulnerable

Reconstruction of Women Children Office (QIP-02)

Sin dhu

Chautara, Sindhupalchok

Establishment and Strengthening of Women's Cooperative (QIP-18)

Gor kha

Formulation of Ward level Committees

Trainings on cooperative establishment process

Source: JICA Project Team(RRNE)

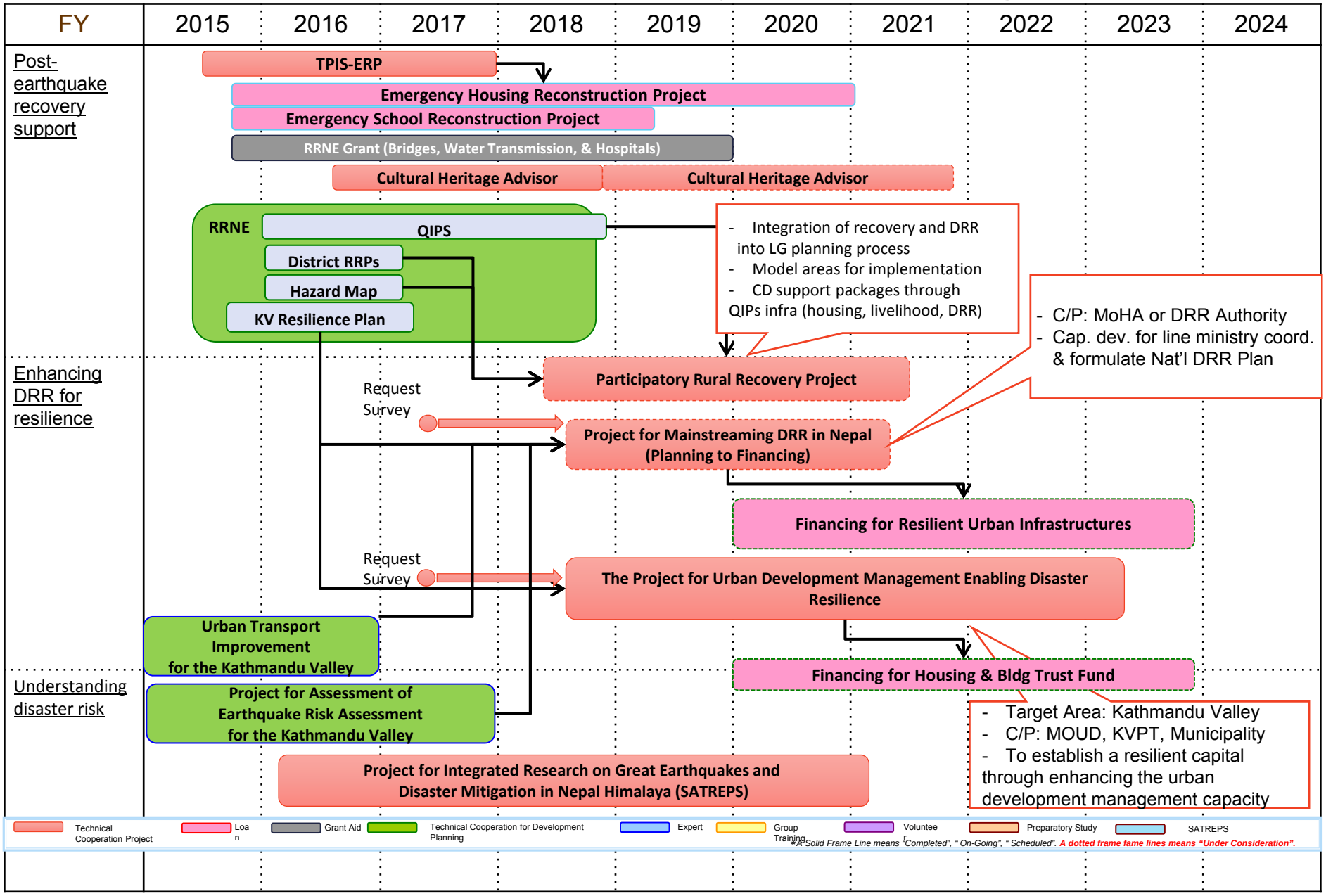
Strengthening the Foundation for Women and Vulnerable

3. まとめ

復興の課題

- 先方政府の事業実施能力の低さ
  ⇒しつこく寄り添い、付き合っていくしかない
- 常につきまとう政治混乱
  ⇒ 政治撹乱は所与のものと割り切った上で最善策を予測・模索する
- Owner-driven事業の難しさ（再建補助金を配布しても住宅再建が着工しない）
  ⇒住民向け社会調査を実施中
  ⇒現地メディアの質の低さ
- 「脆弱性の再生産」をいかに回避するか
  ⇒住民・石工向けトレーニングの継続
- 復興から防災（予防投資）へいかにつなげるか
  ⇒昨年11月よりDfIDと共同で防災DP会議を設立
  ⇒新規防災技協・借款を立ち上げ準備中

Nepal Earthquake Recovery and DRR Program



2年間を振り返って

- 先方政府に振り回される日々。辛抱強く寄り添い、先を読み、種をまくことの大切さ
- 途上国政府の中枢に入り込み、国づくりに参画できることの喜び（中規模国ネパールならでは？）
- 「走りながら考える」ことの難しさと面白さ
- 日本国内の調整は大変。しかし日本のリソースを持つことがJICAの強みであることも真。
- 国際協力は分野を超えた知識、分析力、判断力、人間性、等々が求められる総合格闘技
- 【JICAまたはその他援助機関へ就職される方へ】現場赴任になるまで極力辞めないで下さい

Ⅲ. キャリア形成について今思うこと

田中の基本スペック（学部３年時）

- （環境よりも）人に関心
- よくわからんけど途上国開発の仕事をしてみたい！
- （色々迷った末に）農学部生物・環境工学専修に所属
- 数奇な縁で水を研究の軸に

当時直面していた課題

- 開発関係の仕事（特に国際機関）は専門性・職務経験が求められる（が、自分にはない）
- 海外経験も積んでおいた方がいい気がする
- 民（ビジネス）を知らなくてもいいのだろうか？

第一の分岐点

就職活動（学部）

- 民（ビジネス）を知らなくてもいいのだろうか？
  - とりあえず就活でもしてみるか（失礼）
  - OB訪問と数社エントリー・内定
- やっぱり大学院へ

大学院（修士）

- どっぷり勉強（他専攻・他研究科の講義も履修）
  - 課題文献に追われる日々
  - 今思うと自分の基礎はこの時作られた
- 学生勉強会により知識・人脈を広げる
  - 専門である「水」に関する勉強会もこの頃設立
- それでも残る海外経験・民間への未練…
  - 修論のテーマも国内（結果的には基礎体力がついたが…）

しかし、頑張っていると
いいことがあるものです

Ｍ１終わりに訪れた二つの幸運

- FASIDフィールドワークプログラムへの参加
  - インドネシアの農村で約3週間のフィールドワーク
  - 「やっぱり自分はこれしかない！」と確信
- 某（零細）コンサルティングファームでのインターン
  - 友人による紹介（以前からのつぶやきが功を奏す）
  - 小さい組織ゆえにあらゆる業務を（国内外問わず）経験
    - 商いや会社というものがなんとなくわかった
  - はからずも軍資金も貯まる

当時描いていた未来戦略

- 日本で博士課程まで行って学位を取ろう
- でも修士と博士の間に海外の国際機関でインターンしよう

海外インターン作戦

- 研究上のつながりから、インドにあるＦＡＯ系機関でのインターン決定
- 喜ぶのも束の間、インドのビザが下りず…
- 結局休学期間をコンサルでのインターンで費やす
  - しかしその間も自分の惨状は周囲に訴え続けていた
  - するとタイのUNEPでの有給インターンが決まる
    - 国際機関ってこういうものなのか
    - 「けっこうやっていけるじゃないか」という自信

博士課程への復学

- 研究生活が別物に見える！
  - コンサル・UNEPで培った明確なアウトプット志向
  - 研究できることの喜び（仕事をしていると、自分の抱いた疑問に真っ向から取り組む機会は意外とない）
- 研究テーマもとうとう海外へ（国際河川紛争）
  - 新たな手法（GIS/RS）にも挑戦。独学の日々。
- 学振（ＤＣ２）への合格
- 結婚したというのも大きかったかもしれない

大学への就職

- 修士時代に講義を取った先生から新領域・国際協力学専攻の助教応募の打診
  - 応募→受かってしまう（多分キャリアのおかげ）
- 周囲の意見は賛否両論
  - 「博士取ってからの方が絶対いいって」by M教授
  - 最終的には就職を決意。任期は３年。

新米助教としての日々

- 専攻の組織改善についつい熱を上げる
  - 学生時代からの問題意識に何とか取り組みたかった（今思うと空回りもしばしば…）
  - 色々な取り組みが実を結びだしたのは３年目くらいから
- 研究（博論執筆）も徐々にペースアップ
- 立場が人を作り上げる

寄付講座への異動（任期延長）

- 水に関する寄付講座（「水の知」（サントリー総括寄付講座）へのお誘いを受ける
  - 水勉強会での活動が思わぬ実を結ぶ
- 更に増える研究外業務
  - しかし、「水」を看板に掲げる人間としてはこの上ないトレーニングになった
- そして、任期３年と５年の違いは大きい
  - 当面は後先のことを考えず、目の前の仕事に専心することを決意

学位取得と次の進路

- 何とか働きながら博士号を取得
- 大学で働く過程で抱いてきた問題意識
  - 開発の現場において研究者の知見が十分に生かされているとは思えない（ODA評価委員の経験）
  - 実務サイドの問題を研究するのも一案だが、どうせなら自分は当事者として取り組みたい
- 気がつくとかつての夢だった国際機関は十分手の届く存在に
  - 悩んだ末にＪＩＣＡの社会人採用へ応募→入構

時間もないのでまとめます

皆さんの役に立つ（かもしれない）教訓

- 直感は立派な合理的判断
  （自分で決めて失敗した方が後悔は少ない）
- 面白いと思った事は惜しまず貪欲に学ぶ
  - 専門分野はある意味できて当たり前。その他知識（＝教養）がその人の個性・付加価値となる
- 浮気も悪くないが一途な軸も持つ
- 海外業務に取り組む上でも国内を知る事は重要
- やりたいことは周囲に訴え続ける
- 自己研鑽は借金してでもやる（１年位棒に振ってもそこまで深刻な影響はない）

皆さんの役に立つ（かもしれない）教訓

- 不本意はむしろ好機
  - 世の中は知らない（けど知っていると役に立つ）ことばかり。しかし、興味対象外のことに能動的に取り組むのは難しい
  - 不本意時にどれだけ腐らず学びを得るか
- 自分の強みを活かし、弱みを隠す工夫を（今さら性格は変えられない。人と同じパフォーマンスを上げる必要は全くない）
- 切れ味も大事だけど、周囲からの信頼はもっと大事
- 私生活の充実が仕事の充実にも繋がる？
- 友達は大切に
- 上から受けた恩は下につなぐ

ご清聴ありがとうございました

धेरै धन्यवाद।

ここでお会いしたのも何かの縁。
困ったことがあればご相談下さい。

yukio.tnk.jp@gmail.com